

授業探訪

言語系科目・スペイン語「スペイン語中級2」

達成感を味わう授業を目指し

全学共通カリキュラム運営センター兼任講師 山浦 アンヘラ

私が担当させていただいている全学共通科目の「外国語としてのスペイン語」の科目の中から、この度は「スペイン語中級2」を中心に紹介させていただく。

学生たちはなぜスペイン語を勉強するのか

学生たちは何を目的に外国語、この場合はスペイン語、を学ぶのだろうか。多くの学生は「コミュニケーション」のためだという。実際に第二外国語として、あるいは専攻言語としてスペイン語を選んだ学生のニーズを調べるために2010年に行われたアンケート調査*では、半数以上の回答者が「スペイン語圏の国を訪ねた時にその土地の人々と話すため」と答えた。では、コミュニケーションのためにスペイン語を勉強するというのはどういうことなのかと問いながら、授業の構成と内容を考える。

今日ほど人がコミュニケーションに注目している時はないだろう。そのため「スペイン語中級2」のシラバスの授業内容には「全体的な復習ののち、スペイン語でコミュニケーションが取れるよう実践的に練習を繰り返します。」と書いている。しかし、よく考えると、母国語を使っても、共通認識を持つことや信頼関係を築くことは難しい。また、コロナ禍以前から、日本のニュース等でも、対人関係が築けなかったり、他者との距離をうまく調節できなかったりする若者が多くなっていることが報道されていた。ましてや、このコロナ禍で状況が深刻化していることは想像するに難くない。

「スペイン語中級2」の2021年度の履修者は14名で、全員が春学期の「スペイン語中級1」も履修していた。この内3名が2022年度にスペインに留学する予定がある。この科目は週2回の授業で1単位しか取れない授業である。スペイン語の学習に高いモチベーションを持つ学生が履修登録していることが分かる。これは、おそらく、「スペイン語中級1」でスペイン語のレベルが確実に上がったことを学生自身が確信していたことと、「スペイン語中級1」に使用した教科書「Muy Bien 2」**を継続して

* GIDE (2012): Cuestionario sobre análisis de necesidades aplicado a los alumnos universitarios japoneses de español. Informe. 日本語による報告は、Pilar Lago Mediante he (2012) 「『スペイン語教育改善のためのアンケート調査』結果報告」『スペイン語研究』27, pp.23-41.

** モヤノ・ロペス, J.C, ガルシア・ルイス・カスティージョ, C, 廣廉好美 (2019) 『いいね! スペイン語2』 東京: 朝日出版社

使用したことがその理由だと考える。授業形態に関しては学生と相談した結果、月曜日は Zoom にてリアルタイムで、木曜日は対面で授業を行うことになった。

私の専門は心理学が基盤で、応用言語・外国語教育の研究を行っているので、学生にとって「外国語で話す」時には「日本語で話す」時より多くの障害があり、それゆえに多くのことに気付くチャンスがあると考える。私たちは、単に情報の伝達を目的とするためにコミュニケーションをするのではない。人には承認欲求がある。自分の言ったことを理解してもらい、承認・評価されたい、さらに相手に影響を与えたいと思う。そのため、私は授業内でスペイン語を学習しながら、日本語でのコミュニケーションの機会も設けるべきだと考えた。母国語ではない言語を使用し、承認・評価されることが十分にできない段階でも自己を表現し、対人関係を築いていくことが大切である。要するに、この場合は、スペイン語を使って、自分の言ったことを理解してもらった、承認・評価された、相手に影響を与えた、すなわち私のスペイン語が通じたという達成感を味わうことができる授業を進めたいと思った。そして秋学は教科書を参考に、1.「将来の夢」、2.「日本の社会とスペインの社会」、3.「スペイン語圏の留学生：大学によろこせ」、4.「世界の社会問題」、5.「スポーツを通して感情を表す」、6.「同級生との別れ」という、学生が興味を持てる、学生の現状に即したテーマを工夫して選定し、それに即した6つの課題を設定した。

課題中心の授業へ

コミュニケーション活動を重視しながら、スペイン語の形式面にも注意を向けるためにさまざまなことを試みた。まず、上記の6のテーマを6の課題に変えた。各課題の達成のために約4週間計8クラスを使って実施した。また、課題を仕上げるためのプロセスには小さなユニット「タスク」をペアか3人のグループで行い、協力しながら授業を進めた。課題の説明、必要な文法の説明は最小限にし、学生を主体的に授業に参加させた。その結果、徐々に学生自身が自分たちの学習に自信を持てるようになった。秋学期の後半に辿り付いた時には、私は教員として見守る時間が多くなり、学生たちのさらなる成長を実感することができた。

タスクの3つの鍵

1. Stephen Krashen のインプット仮説 (i+1) を用いた：まずはちょうど良い適切なレベルのインプットを考え、学生のレベルに応じて教科書の内容を飛ばしたり、補足したりした。自分にとって少しだけ難しいインプットが大事であるということについては、異論はなかろう。最近の脳科学の研究でも、適度なチャレンジに成功したときに、快樂物質であるドーパミンが放出され、脳が活性化されることも分かっている。

2. 場面設定をした：具体的な使用場面を想定できるように、可能な限り学生の生活空間や興味に関連した場面設定をした。
3. 教授法：多くのロールプレイ、シミュレーション、コミュニケーション・ギャップを利用した活動を用い、教室に実際のコミュニケーションの必然性を作り出すことを図った。

課題の例

まずはテーマ3.「スペイン語圏の留学生：立教大学によくこそ」について紹介する。1回目の授業では場面作りと課題設定を行った。学生同士で留学について話し合い、必要だと思われる情報を確認した。2～4回目の授業では、必要な文法および語彙を紹介しながら、モデルに倣って会話を練習した。5回目と6回目の授業では日本人のスペインでの留学生活とスペイン人の日本での留学生活について勉強し、さらに、会話を練習した。7回目の授業では3人グループで、「立教大学にラテンアメリカから来た留学生のためのパンフレット」を作成した。8回目の授業で他のグループのパンフレットの評価と事項評価を行った。

評価のためのルーブリック

立教大学にラテンアメリカから来た留学生のためのパンフレット		グループ1	グループ2	グループ3	グループ4
4つのテーマがある？	4 x 3点=12点				
0～4 どれ位好き？その理由は？	4点				
間違い： 動詞の時制あるいは活用	-0,5				
性・数	-0,5				
つづり/アクセント	-0,25				
コメント					

実際に学生が作成したパンフレットの一つ：



次に、4.「世界の社会問題」の課題について紹介する。1 回目の授業では場面作りと課題設定を行った。スペインの社会の問題について勉強した。2～4 回目の授業では、必要な文法および語彙を紹介しながら、モデルに倣って会話を練習した。5 回目と6 回目の授業では日本とスペインの社会問題を比較しながら、さらに会話を練習した。7 回目の授業では、ペアでラテンアメリカの国を選びその国の社会問題について調べた。そして、その国および社会問題の紹介とその対策の提案という内容の4 分程度の発表を準備した。8 回目の授業で発表を実施した。メキシコ、キューバ、ニカラグア、プエルトリコ、ベネズエラ、パルーについての発表があったが、お互いに聞いて、お互いに理解し合っていることに学生たちは喜んでいて、「スペイン語の授業で世界の問題について考えることを想像した？」とうれしそうな顔で話し合う学生たちの姿が印象に残っている。

学生の声

私が見て感じていることだけについて紹介しても物足りないと思い、「スペイン語中級2」を履修している学生に「自分のスペイン語力が伸びたかどうか」と、その理由を尋ねた。学生は、自分のスペイン語力が伸びていると答えた。理由は「この授業では、コミュニケーションを通して、同じ文法を何回も、何回も練習するため、頭に入りやすかったからだ」、「授業を通して発表を行ったり、ペアで会話したりして、話す力や聞く力が伸びたと思う。レポートの小課題などで添削をしていただき、文法も学ぶことができた」、などであった。

また、「この授業の一番好きなおとこ」とその理由も尋ねた。この質問については「コミュニケーションをたくさん取れるところと、週一回対面でできるところ。楽しいし、身につけやすいからだ」、「スペイン語を話す時間。難しいし、うまく話せないこともあ

るが、学んだことを活かせる瞬間で、自分の意見をスペイン語で話す時間が好きだと思う」といった答えがあった。

幸いにも、教員として私が見て感じていたことを、学生も同じように思っていた。ちなみに、「この授業の好きじゃないところ」とその理由も聞いてみたが、これについては、「テスト」、「自分には難しいと感じるスペイン語の文章を聞き取る時間」だということであった。テストはどんな科目でも好きだという人はほとんどいないだろう。しかし、聞き取りの練習問題については、一部の学生にとっては難しすぎたのかもしれないと考えさせられた。改善すべき点に気付けて良かったと思う。

終わりに

学生たちは何のために外国語を学習するのだろうか。外国語を使う目的は人それぞれである。趣味や将来のため、国際的な場で自己実現を目指す人や、脳の老化を防ぐためにとという人もいるであろう。しかし、その言語を学習することは、学習者個人に、あるいは社会にどのような意味があるだろうか。スペイン語という外国語でコミュニケーションをしようとする事自体は、日本語が通じないスペイン語圏の世界と何らかの形でかかわりたいということであろう。スペイン語は世界で英語の次に使われている言語であり、スペイン語を母語とする人は約5億人とされている。スペイン語の科目は学習者にとって、単に語学のスキルを磨くための授業ではなく、「自分と日本および自分と世界」にどのようにかかわるかを考えるきっかけとなる科目にすべきであろう。そのためには、日本における外国語教育を変える必要があると考える。今の私にできることは、担当する授業中で「スペイン語中級2」のような取り組みを行いつつ、日本における外国語教育の変革を目指し、貢献することだと思う。

やまうら あんへら